

2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 42014 単位数 : 4

科目名	開発と貧困の経済学	科目責任者	加納 直幸
課題と試験担当教員			
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CECON361		

■ 科目概要

現在、世界第3位の経済大国・日本に住む私たちには、果たして「貧困」と無縁なのであろうか。世界銀行が定義するところの“絶対的貧困”の状況で暮らす日本人はいないものの、OECD諸国の中で“子供の貧困率”は最低水準という統計が出ている。この状況を理解するにはどのような視点が必要であらうか。貧困とは何か。そして豊かさとは何かについて、一人でも多くの国民が考察を深めていく事こそ、よりよき日本そして国際社会の構築にとって重要である。本講座のテキスト『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』は、世界の経済の発展の歴史を「開発」と「貧困」に焦点を当てて展開されている。世界から日本、そして日本から世界の開発と貧困を考察するものである。

■ 到達目標

まず、世界経済の歴史の中で、何が起こって、その結果どのような状況が生まれたのかについて大きく理解してほしい。この著作（テキスト）は、簡潔に記述されているが、理解する事は実に困難である。それは、一つ一つの事例や分析を本当に理解するには、ある一定の政治・経済学と歴史の知識を必要とするからである。また、貧困と開発についての内外の統計や調査結果は、刻々と変化するので、このテキストの中を理解するだけでは、今後生じる貧困や、開発問題について理解する事はできない。

つまり、「開発と貧困の経済学」を学ぶということは、月々日々、問題意識を持って、分からないことや興味のあることを調べ勉強していくことになる。その勉強の姿勢を取得してほしい。また、各種統計資料を様々な分野から入手し、分析理解できる力を身につけることが大事である。さらに、このテキストをコア（核または中心）にして、関連した書物を読んでいただきたい。そうすることでますます理解が深まるであらう。大きな変動を続ける21世紀に生きる学徒として、困難な現実から目を背けることなく、現実世界を切り開いていける見方や姿勢を身につけていただきたい。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
「はじめに」ならびに「第1章」の全般（1-1）	「はじめに」では、開発と貧困を、一国や一地域だけでなくグローバルな視点で捉える事の重要性を説いている。その上で、「第1章」の“大いなる分岐”と題してそのルーツを探っている。ここでは、大きく世界的な視点を身につけることが重要である。
「第1章」の後半（1-2）	本テキストに出てくる経済学のGDP、平均所得等々の概念をしっかりと再度勉強した上で、“必要最低限ぎりぎりの生活レベルというのは貧困の罅である”（p.18）との意味を理解する。
「第2章」西洋の勃興（2-1）	“経済発展の要因”や“世界の不平等化の原因”についての著者の見解を理解する事。（p.19～p.22）
最初のグローバル化（2-2）	15世紀に発明された帆船によってヨーロッパから航海を通じた“最初のグローバル化”が始まった。その概要を学ぶ。（p.22～p.31）
最初のグローバル化（2-3）	“グローバル経済での成功”によって何が起こったのかについて学ぶ。（p.31～p.33）
「第3章」産業革命—なぜイギリスではじまったのか（3-1）	近世経済の転換の結果としてはじまったイギリスの産業革命について、文化的・政治的背景について学ぶ（p.34～p.42）
産業革命の中身と綿工業（3-2）	産業革命の中で、イギリスの製造業の中核になった綿工業についての理解を深める。（p.42～p.46）

学習範囲 該当する章など	学習内容
産業革命と蒸気機関（3-3）	産業革命の中で、もっとも大きな変化を引き起こした蒸気機関の産業界への広がり大きさと、世界史的な意味を学ぶ。(p.46~p.52)
「第4章」工業化の標準モデルドイツとアメリカのキャッチアップ（4-1）	19世紀初めから後半にかけて、産業革命はヨーロッパ大陸諸国そしてアメリカに広まったが、産業革命とともに始まった工業化の内容と標準化はどのようなものであったか理解する。(p.53~p.62)
技術進歩のマクロ経済的特徴（4-2）	先進諸国と後進諸国の違いはどのようにして生じたかについて、マクロ経済から見た工業化の視点で理解を深める。(p.62~p.70)
「第5章」偉大な帝国—インドの工業化の挫折（5-1）	いわゆる植民地時代以前から、世界には多くの帝国が存在した。その中で、インドが工業化に挫折した要因について学ぶ。(p.71~p.76)
「第5章」偉大な帝国—インドの工業化の挫折（5-2）	インドの工業化の挫折を、綿工業の歴史をイギリスとの関連で理解していく。その中で、伝統的製造業の衰退と近代産業の発展を見ていく。(p.76~p.85)
「第6章」南北アメリカ—なぜ南北格差が生じたのか—（6-1）	先進諸国としての北アメリカ。そして開発途上諸国としての南アフリカ。その差が生じた遠因を植民地経済の視点から探っていく。(p.87~p.106)
アメリカ合衆国の独立とラテンアメリカの独立（6-2）	南北アメリカの独立が、どのように行われ、経済発展に与えたインパクトがどのように違ったかについて理解を深めていく。(p.106~p.115)
教育と発明（6-3）	南北アメリカの経済成長の違いを鮮明にするために、アメリカ合衆国とメキシコとを、教育と発明に焦点を当てて比較している。(p.116~p.121)
「第7章」アフリカ—なぜ貧しいままか—（7-1）	西暦1500年当時でも、サブサハラアフリカは世界で最貧地域であった。農業を中心にアフリカの貧困を考える。(p.123~p.132)
奴隷貿易（7-2）	輸出品としての奴隷、そして奴隷貿易がどのように開始されたのかについて学ぶ。(p.132~p.138)
植民地政策（7-3）	アフリカで15世紀から始まった植民地政策が現代まで、アフリカ各国にどのような影響を与え続けているのかについて理解する。(p.138~p.144)
歴史的観点から見た現代の貧困（7-4）	19世紀初頭に北アメリカ植民地と同様、輸出指向型の軌跡を歩みだした。しかし、この両者の間には大きな差が生じた。その背景と要因について学ぶ。(p.145~p.154)
「第8章」後発工業国と標準モデル—帝政ロシア—(8-1)	長きに渡ってヨーロッパでもっとも後進国だったロシアの経済の近代化の挫折の歴史が帝政ロシアの崩壊をもたらしたことを学ぶ。(p.155~p.158)
日本（8-2）	アジアの中で、最初に西側諸国にキャッチアップした日本の概説。(p.158~p.161)
明治維新（8-3）	明治維新の概説。(自身で様々な資料や著作物を読み込んでおいてください。科目試験の問題の中にも、明治維新の理解を前提としたものが含まれます。) (p.161~p.162)
明治期の経済発展（8-4）	欧米スタイルの経済発展を考えていた明治政府は、様々なシステムの導入を図った。うまくいったこと、いかなかったことが紹介されている。その歴史の一端を知る事。(p.163~p.167)
帝国主義期の日本 {1905~1940}（8-5）	帝国主義時代の日本は、それまでの軽工業の発展モデルから重工業中心の発展モデルを完全に実行することとなった。現代の経済大国日本の礎の一つを築いた。(p.167~p.170)
ラテンアメリカと工業化の標準モデルの終わり（8-6）	約1世紀前に工業化の標準モデル適用を行った日本に比べ、直近でその適用を行ったのがラテンアメリカである。しかしうまくいかなかった。言い方を帰ると貧困から脱却できなかった。その背景と理由について学ぶ。(p.170~p.175)

学習範囲 該当する章など	学習内容
「第9章」ビッグ プッシュ型工業化 —ソ連— (9- 1)	20世紀において、経済発展において、その他の地域を益々引き離れた欧米だったが、ソ連と日本と東アジアは別であった。ソ連は、ビッグプッシュ型発展の古典的事例を示した。その内容について学ぶ。(p.177~p.183)
日本 (9-2)	第二次世界大戦後、“アジアの奇跡”と呼ばれ、一時は世界第2位の経済大国になり、21世紀に入っても第3位の地位を維持している日本。そのエッセンスを理解する。(p.183~p.188)
台湾・韓国・中国 (9-3)	台湾と韓国は、日本に続いて西欧にキャッチアップした。つまり貧困を克服したという。中国はしつとあるという。その中身と意味を考察する。(p.189~p.196)
テキスト全般から 「開発」と「貧 困」について」学 ぶ	もう一度、最初から最後まで読了すること。その上で、現在もなお発生している貧困問題や開発問題について、国内外の各種統計、新聞、関連本等々、問題意識あるいは興味を持てるものから学んでいくことです。

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	①テキストをしっかりと読み込んでいるかどうか。②経済用語や専門用語を正しく理解した上で解答しているか。③できるだけ入手可能な最新の情報や統計を把握して、回答に反映させているか。以上の3点が採点時にポイントになります。
レポート	課題の趣旨をしっかりと理解して書いて下さい。根拠のない数字や統計はマイナス点になります。また、日ごろから、貧困や開発問題に関する統計や記事等々を収集するなどの努力が、良いレポート作成の助けになります。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか初版第8刷
著者名：ロバート・C・アレン著
出版社名：NTT出版株式会社
出版年：2012
版：初版
刷：8
ISBN：978-4757123045

■ 参考書

各種国際機関が発行するレポート。世界銀行発行の『世界開発報告』、ユニセフの『世界子供白書』など。総務省発行の各種白書。その他。

■ 履修上のアドバイス

貧困に対する高い問題意識を持っている方に履修して頂きたい。単なる単位習得を目的とする方には、調べる事、勉強時間など全てが苦痛になると思います。幅広い知識、旺盛な探究心、そして正義とは何かということ学んでみたい方にはぴったりです。

■ 自習時間

各コマ1~2時間程度。

■ 担当者のプロフィール

1957年、石川県生まれ。創価大学大学院博士後期課程、単位取得退学。1987年平和問題研究所助手。1992年アフリカ研究センター助教授。1993～1994年、外務省専門調査員として駐ジンバブエ日本大使館に勤務。1996年、総務省海外青年交流団団長としてジンバブエと南アフリカに。2000年、ジンバブエ大学に在外研究。現、通信教育部准教授。